

氏名	池 紀 征
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 420 号
学位授与の日付	昭和 51 年 3 月 31 日
学位授与の件	医学研究科外科系泌尿器科学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目	ラット膀胱腫瘍抽出物質—LPS, LPI—の抗原性について (培養細胞を用いた細胞障害性試験による検索)
論文審査委員	教授 小川勝士 教授 田中早苗 教授 佐藤二郎

学位論文内容の要旨

random bred の雄 Wister 系ラットに 0.5% の N-Butyl-N-Butanol(4)-Nitrosamine を飲料水に混ぜて投与し発生した膀胱腫瘍から, DOC-Acetone 抽出生食水可溶性分画 (LPS), 生食水不溶性分画 (LPI) を分画する一方, 腫瘍を組織培養した。そして LPS, LPI でラットを免疫し, 感作脾細胞を得, 組織培養で得られた上皮性増殖を示す初代培養細胞に対する細胞障害性を検索した。LPS, LPI は古元氏法に準じて分画し, 脾細胞の分離は Boyle の方法に従った。組織培養は組織片の静置培養法を選び上皮性増殖を示したのもののみを用いた。障害性試験は Takasugi and Klein の Microassay 法に従って細胞数減少率を求めた。結果は Wister 系担癌ラット脾細胞と, 培養細胞注入ラット脾細胞に最も強い障害性を認め, LPS, LPI はアジュバンドの添加で有意な障害性を認めた。単独投与でも軽い障害性をみたが有意ではなく, またアジュバンドだけの投与でも障害性を認めしており, 現在のところ明らかな免疫原性を示したとは言い難い。

論文審査の結果の要旨

本研究は BB-Nitrosamine 誘発ラット膀胱癌より抽出した 2 種のリポ蛋白様物質で感作した同種動物の脾細胞を用い, 同腫瘍の初代培養細胞に対する細胞障害性を検索し, その効果を諸対照実験群のそれと比較したものであるが, 膀胱癌に対する免疫療法の研究について基礎的知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。